

「メディアリテラシー」に関する 現状と検討課題について

「メディアリテラシー」に関する学習が不十分

- 諮問において、「情報モラルやメディアリテラシーの育成強化について教科等間の役割分担を含めどのように考えるか」、検討事項として挙げられているほか、また、論点整理において、「メディアリテラシー」について学校の取組差が大きいことが指摘されている
- また、社会の分断を防ぎ確かな民主主義の担い手を育成する観点からも、「メディアリテラシー」の育成は必要である
- 現行学習指導要領及び解説では、情報活用能力に情報モラルを含むと整理し、「情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度」を学ぶこととされているが、情報モラルの指し示す範囲や、いわゆる「メディアリテラシー」として扱うべき内容が不明確である

【第5回WGでの主な委員意見】

- メディアリテラシー教育を充実させるためには、「クリティカル・シンキング」を発揮させるという観点が大切
- 「民主的で持続可能な社会の作り手」の育成のためには、「クリティカル・シンキング」に基づく「情報対応スキル（メディアリテラシーの一部であり、情報を多角的に分析して考えたり、受発信する情報には社会的・文化的背景があることを理解したり、偽情報等は活用しないことも含めて対応することなどを含む素養）」が重要である
- メディアリテラシー教育は教科横断的に扱われるべきであり、教育課程全体を通して身に付けるべき資質・能力である
- 情報活用能力の育成に資するメディアリテラシー教育には、「デジタル・シティズンシップ」と人権教育にも配慮する必要

教育課程における「メディアリテラシー」の位置づけ 【補足イメージ1】

- いわゆる「メディアリテラシー」は、本WGにおける委員ヒアリングやUNESCOの見解を踏まえれば、単なる情報メディアの特性等の理解にとどまらず、情報メディアから得られた情報を社会的・文化的背景から吟味することや、その情報の活用（ないし不活用）・発信について判断し社会参画すること、情報を多角的に分析し批判的に評価すること等と考えられる。また、およそ現代社会ではこれらを行う際に情報技術を介することを踏まえれば、「メディアリテラシー」は情報活用能力の構成要素であり、情報メディアの特性が受け手に及ぼす影響を踏まえ、情報を社会的・文化的背景の中で吟味し批判的に評価したり、発信したりして、社会参画する考え方と態度と捉えることができるのではないか

教育課程における「クリティカル・シンキング」の位置づけ 【補足イメージ1】

- 「メディアリテラシー」の文脈でデジタル社会の具体的な状況に適切に参画・対応できるようになるためには、情報を多面的・論理的に吟味し、根拠に基づいて判断するといった思考の様式が必要となる。本WGにおける委員ヒアリングやOECDの見解を踏まえれば、これは「クリティカル・シンキング」と解されるが、その要素を整理すれば論理的・合理的に考察し、内省的に思考を振り返りながら、よりよい判断を志向する思考の様式と捉えることができるのではないか。なお、これは教科や学習場面と切り離して働くものではなく、各教科等の学習過程の中で具体的に働くものと考えられる
- そのうえで、「メディアリテラシー」は、各教科等における学習過程の中で育まれた「クリティカル・シンキング」を情報活用能力育成の核となる教科等において統合的に働かせて、育成するものと位置づけてはどうか

「メディアリテラシー」に関する内容の考え方 【補足イメージ2】

- 「メディアリテラシー」に関する内容は、現行の情報モラルの考え方（情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度）と重複するものと、現行学習指導要領では明確に位置づけられていないものがあり不明確
- 「メディアリテラシー」を情報活用能力の構成要素として捉えることを踏まえれば、「メディアリテラシー」に関する内容は、情報モラルとともに「②適切な取扱い」（メディアを含む情報技術を扱う際の考え方と態度（法や制度、倫理、安全等））の一環として扱うことと整理したうえで明確化してはどうか

教育課程における「メディアリテラシー」の位置づけ

- 生成AIによるハルシネーションや、人間の認知特性を踏まえたアルゴリズムによる情報の取捨選択や提示の最適化が進む中、真偽不明なものも含めて情報があふれるデジタル社会においては、真に必要な情報を吟味し、適切に取り扱う力の重要性が高まっており教育課程においてもその整理が必要
 - そこで、教育課程においては、「メディアリテラシー」を情報メディアの特性が受け手に及ぼす影響を踏まえ、情報を社会的・文化的背景の中で吟味し批判的に評価したり、発信したりして、社会参画する考え方や態度であり情報活用能力の構成要素と捉え、各教科等の学習過程の中で育まれた「クリティカル・シンキング(※)」を、情報活用能力の育成の核となる教科等において統合的に働かせて育成するものとして位置づけてはどうか
- ※ 「クリティカル・シンキング」・・・論理的・合理的に考察し、内省的に思考を振り返りながら、より良い判断を志向する思考の様式であり、教科や学習場面と切り離して働くものではなく、各教科等の学習過程の中で具体的に働くものと考えられる

学習の基盤となる資質・能力

各教科等において育む資質・能力

情報活用能力

情報技術を適切かつ効果的に活用し、問題を発見・解決したり 自分の考えを形成したりしていく力 (総則・評価特別部会)

「メディアリテラシー」 ※具体的な学習内容イメージは次ページ

- メディアリテラシーとは、以下のことを可能にする思考力・実践的スキル、知識、態度を持つことである ※ 1
- ✓ 民主主義社会におけるメディアの役割と機能を理解すること
 - ✓ それらの機能が果たされる条件を理解すること
 - ✓ メディアコンテンツを批判的に評価すること
 - ✓ 自己表現、異文化間対話、民主的参加のためにメディアに関わること
 - ✓ ICTスキルを含むスキルを応用し、ユーザー生成コンテンツを制作すること

- メディアリテラシーの一部
- ・ 情報を、多角的に分析(情報源の比較等)して考える
 - ・ 情報の受発信、受け止めに、社会的・文化的背景がある(自分のバイアスもある)ことを理解する
 - ・ 偽情報・白黒はっきりしない情報は「活用しない」「判断を留保する」ことも含まれる ※ 2

日々の学習や生涯にわたる学びを基盤として支える

「メディアリテラシー」の文脈で、各教科等で育まれた「クリティカル・シンキング」を活用して、デジタル社会の具体的な状況に適切に参画・対応できるようにする

核となる教科等

総合的な学習の時間
(情報の領域(仮称))

情報・技術科(仮称)

情報科

国語

社会

算数・数学

理科

直接的に育成に資する場合も

「クリティカル・シンキング(情報の吟味)」

クリティカル・シンキングは、アイデアや解決策を問い直し評価すること。帰納的推論と演繹的推論、分析、推論、評価を含む。 ※ 3

クリティカル・シンキングとは「批判する」ことではなく、「吟味する」こと。

- 1) 論理的・合理的な思考
- 2) 内省的、熟慮的な思考
- 3) よりよい思考を行うための目標志向的思考

クリティカル・シンキングに基づく主な行動

- ・ 立ち止まって考える
- ・ 賛否両方の立場から考え評価する
- ・ 仮説を立てて検証する
- ・ 根拠に基づき、論理的に説明する
- ・ 目的、状況、相手の感情、文化、価値観等を考慮して実行する ※ 4

※ 「クリティカル・シンキング」について目標や見方・考え方等においてその旨を言及している教科等もある(別紙参照)

※ 1 (出典) UNESCO (2013). Media and information literacy: policy and strategy guidelinesを元に、資料作成者が和訳したものであり、原文の一部を省略している

※ 3 (出典) OECD(2023). THE FUTURE OF EDUCATION AND SKILLS : OECD Learning Compass for Mathematics.を元に、文部科学省で仮訳したものであり、原文の一部を省略している

※ 2 第5回情報・技術WG 山協委員ヒアリング資料より抜粋し一部加工

※ 4 (出所) 「メディアリテラシー吟味思考を育む」(時事通信社、2022年)

「メディアリテラシー」に関する内容の考え方

- 「メディアリテラシー」に関する内容は、現行の情報モラルの考え方（情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度）と重複するものと、現行学習指導要領では明確に位置づけられていないものがあり不明確
- 「メディアリテラシー」に関する内容は、情報モラルとともに「②適切な取扱い」の一環として扱うことと整理し明確化してはどうか

2

情報技術の適切な取扱い

法や制度

情報技術に関わる法令・ルール、著作権等の権利、個人情報 他

倫理

情報社会におけるマナー、責任ある利用 他

安全

情報セキュリティ、危険回避、偽誤情報、メディアや情報との関わり、健康影響 他

情報モラル（現行）

「情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度」（学習指導要領解説）

＜解説で示されている内容例＞

- ルールやマナーを守り、自他の権利を尊重し 情報社会での行動に責任をもつ
- 情報機器の使用による健康との関わりを理解する

「メディアリテラシー」（一部）

＜解説で示されている内容例＞

- 情報には誤ったものや危険なものがあることを知る
- 情報を安全に利用する
- 情報発信による他人や社会への影響について考える

「メディアリテラシー」の重要な要素である、情報の吟味や批判的な評価、デジタル社会への参画といった要素が内容として不明確

「メディアリテラシー」に関して想定される学習内容イメージ（核となる教科等）

小学校

- 情報メディアを介して得る情報には、誤ったものや危険なものがあることから、すぐ鵜呑みせずに吟味したうえで判断する
- 情報メディアを介して得る情報は、送り手が情報の一部を切り貼りするなど再構成して発信していたり、受け手によって情報に対する印象が異なって伝わるといった認識の下、情報を受発信する 等

中学校

- 情報メディアを介して得る情報は、アルゴリズムによって受け手の嗜好に合わせた取捨選択が行われていたり、AIにより生成された偽・誤情報も含まれることから、メディアを比較しながら、情報の信頼性や信ぴょう性を吟味し批判的に考察する
- 情報メディアを介して得る情報には、人間の心理的傾向が働いたり、社会的・文化的な背景があるといった認識の下、情報を受発信する 等

高等学校

- 情報の発信などにおいて情報技術を活用する際には、他者の権利や社会的責任を考慮し、安全で公正な行動を考える（情報を吟味したうえで、あいまいな情報は不用意に用いない）
- 情報メディアの特性（フィルターバブルやエコーチェンバー等）を踏まえつつ得られた情報を根拠に、問題解決に向けて論理的に仮説・検証を繰り返す 等

※内容としての具体的な取扱い方や位置づけ方は、情報活用能力全体の体系性の整理と整合を図りながら、今後検討

その他教科等における検討状況

「主体的・対話的で深い学び」の実現を通じた

自らの人生を舵取りする力 と 民主的で持続可能な社会の創り手 育成 (今後の検討イメージ)

「好き」を育み、「得意」を伸ばす
(興味・関心)

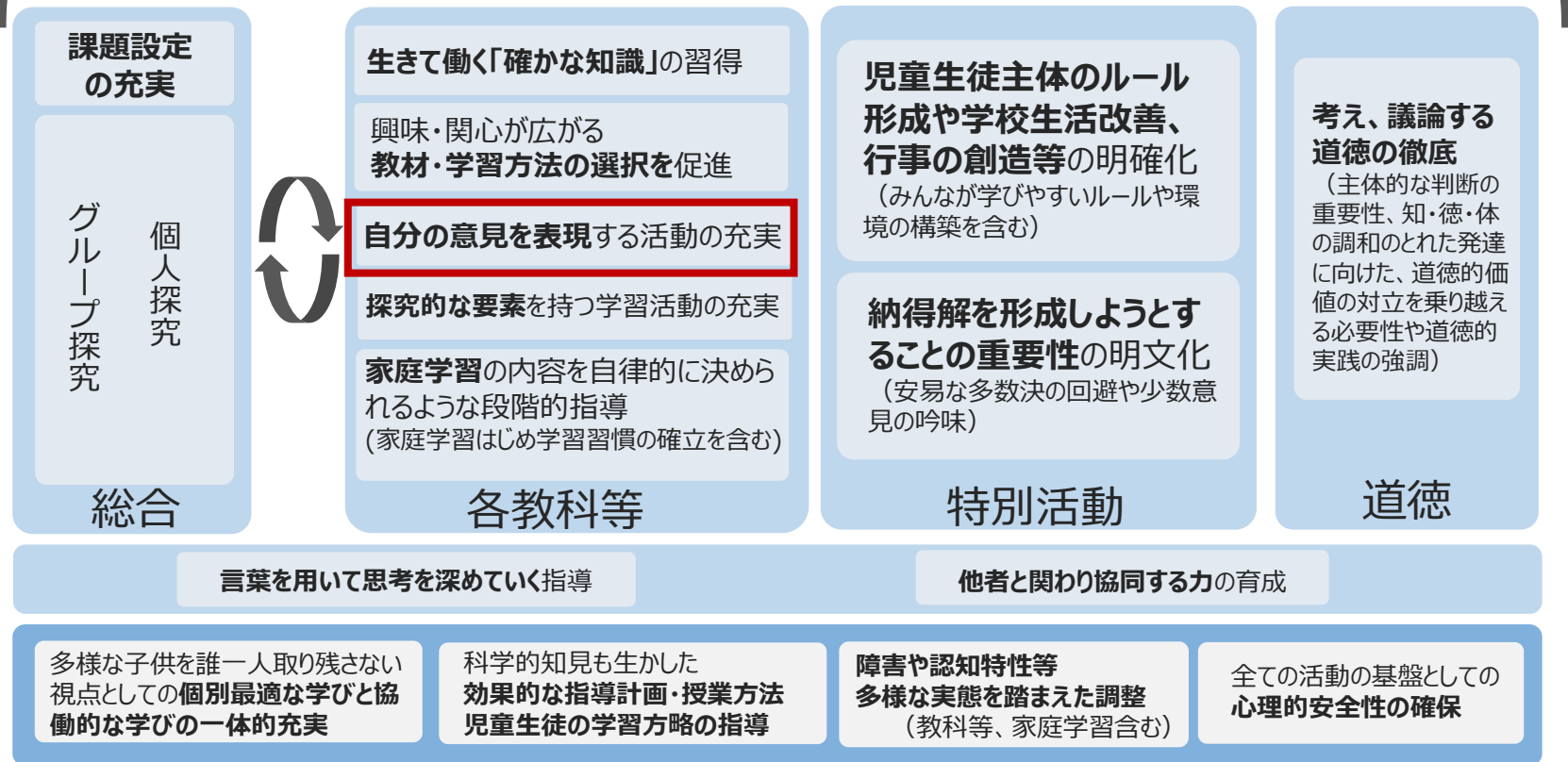


当事者意識を持って、自分の意見を
形成し、対話と合意ができる

【各教科等での検討イメージ】

好き・得意をベースとした
主体的な進路選択の促進

高
中
小
幼



学びをデザインする高度専門職としての教師
「裁量的な時間」をはじめ柔軟な教育課程による余白

デジタル学習基盤をはじめとする基盤整備
総合的な勤務環境整備

※本イメージ図は、自らの人生を舵取りする力と民主的で持続可能な社会の創り手育成という今後の検討の一部を資料化したものであり、学習指導要領の改訂に関わる全ての要素を網羅する性質のものではない



1. 子供の社会参画に関わる教育内容の充実

<全ての教科を通じた改善>

- ① 社会科・公民科を中心としつつ、関連する教科等のWGで、子供の社会参画や意見表明を推進する観点から、見直すべき点がないか検討すべき
※模擬議会・模擬選挙など、地域社会と連携した実践的な学習活動の推進方策については、総務省と協議
- ② 全ての教科等を通じて、自分の意見の根拠を持った説明、一方的な意見の主張に止まらない対話を含む「協働的な学び」を一層重視すべき

※ フィルターバブル・エコーチェンバーの影響が強く指摘される中、第四章（1）では情報モラルやメディアリテラシーの向上を含む情報活用能力の抜本的向上の方策を整理しているが、これらも社会参画に関わる教育内容の改善の一環として捉えつつ、今後関連する教科等のWGで検討を深める

<特別活動における改善>

※ 特別活動：「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせ、よりよい集団や学校生活を目指して様々な活動に実践的に取り組む領域

- ① 身近な社会である学級・学校で、多様な個性や特性、背景を持つ他者との対話や協働により、児童生徒が主体となってルールの形成や学校生活の改善、学校行事など様々な活動に参画することにより、「生成AI時代の主権者」として、確かな民主主義の担い手を育み、共生社会を実現する基盤を提供する領域として、特別活動の位置付けを明確化すべき
- ② 児童会・生徒会活動について、教師の適切な指導のもと、校則など学校のルールの設定をはじめとする学校運営に発達段階に応じて子供が関わる仕組みであることを、教育的活動という性質に十分配慮しつつ、明示的に示していくべき
(補足イメージ 取組例①②)
- ③ 学校行事について、各行事の特質や教師の過度な負担を生じさせない観点を踏まえつつ、子供たちが創造する活動である旨をより明確にすべき (取組例①)
- ④ 学級活動について、学級内の多様性を前提に、共生社会の実現に向けた納得解を形成することの重要性をより明確に位置付けてはどうか。このことが社会的障壁の低減や教育課程全体の包摂性の向上に資することが期待される (取組例③)
- ⑤ 以上の改善の実効性を上げるためにも、子供が主体的・実践的に取り組む活動という特別活動の特質を踏まえ、内容の精選を進めるとともに、学習評価の質を向上させるための合理化を検討すべき

2. 取組を促進する方策の充実

<教師の負担への配慮等>

- ① 児童生徒の意見を活かした学校運営やルールの形成等の取組を円滑かつ豊かなものにできるよう、クラウドツールの活用方法を含め、意見表明を過度な負担なく学校の様々な活動や運営に繋げる好事例等について、整理・提供すべき
- ② 児童生徒の参画や意見を活かした学校運営、授業づくりに関する指導上の工夫等について、学校管理職や教師等に対する研修を充実させていくべき

<子供の意見を反映させる受け皿の整備>

- ① 子供が学校生活での気づきや悩みをクラウドで寄せることができる仕組みなど、学校運営の包摂性を高める取組の一環として、教師の過度な負担なく児童生徒の声を聞く取組を促すことを検討すべき
- ② 学校運営協議会制度（コミュニティスクール）において、子供の社会参画を促す方策を検討すべき (取組例⑤)
 - 子供の社会参画や意見表明の推進を議題とする
 - 子供自身が学校運営協議会に参画する
- ③ 学校評価において、学校運営の評価・改善プロセスに子供が関わることについて、子供の社会参画に関わる教育内容と関連づけることを促すことを検討すべき (取組例⑥)
- ④ 教育振興基本計画や教育大綱の策定をはじめとする地方公共団体での議論において、子供の意見表明の機会を設ける等、学校を超えて子供の社会参画を促すことを検討すべき (取組例⑦)



(国語WG) 資質・能力の構造化等に関連する検討のポイント

1. 目標・内容の構造化等のポイントについて

- 国語科は、思考力・判断力・表現力等の系統性が明確であり、知識及び技能が全体として思考力・判断力・表現力等の深まりを助けることを明確にするため、**「並行」パターンでの表形式化を検討**
- 短文でのやりとりが中心となるSNSなどに日常的に接する中で、まとまりのある思考を深めたり表現を工夫したりする経験が不足しており、**目的や場面に応じて、自分の思いや考えに適した言葉を用いて表現することなどに課題**。「何のために言葉を使うのか」という視点を明確にし、学習活動の目的を意識できるようにするため、思考力・判断力・表現力等の内容については、**従来の「話す・聞く／書く／読む」といった領域のみならず、「情報の伝達/他者の説得/情報の獲得・他者の主張の吟味/合意形成」といった「言葉を使う目的（仮称）」（※）を基に整理**して示す方向で検討

（※「言葉を使う目的（仮称）」の呼称や、具体的な分類の方法等は、引き続きWGにおいて検討予定。）

2. その他の重要論点について

- **学習の基盤となる資質・能力である「言語能力」の在り方**について、AIによる大量の言語生成が可能となり、それをSNS等で容易に発信可能な時代だからこそ、自らの意思や考えを形成・表現することや、他者の経験・感情を理解することといった**人間ならではの言語能力を重視する観点から再整理**。また教育課程全体を通じた言語能力育成の一層の推進のため、国語科と各教科等での言語能力育成の役割分担について整理
- 今後、WGにおいて、**高校国語科の科目の在り方について検討予定**（※選択科目の資質・能力の構造化の素案については、今後示す予定）

発達段階に応じて扱う話や文章の種類の一貫性（再整理のたたき台）

【「実社会における目的に応じた話や文章の種類の一貫性」と「目的の示し方」についてどう考えるか】

思考力、判断力、表現力等を育成する際に扱う話や文章の種類について、学校段階等に応じて系統的に一貫性（名称等は全て仮称）

目的	領域等	思考力、判断力、表現力等 （概略）【※1】	学校段階等に応じて扱う話や文章等の種類の一貫性（概略）【※2】			
			現行学習指導要領の〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域の(2)で示している言語活動例を基に一貫性のみを示している			
			小学校		中学校	高等学校（必修）
			低学年	中・高学年		
情報の伝達/ 情報の獲得	話す・聞く	<ul style="list-style-type: none"> 説明や解説などをする。 説明や解説などを聞いて自分の考えをもつ。 	紹介や説明、報告など	紹介や報告など	紹介や報告、説明など	報告や連絡、案内、批評
	書く	<ul style="list-style-type: none"> 説明や解説などの文章を書く。 	経験等の報告や観察の記録などの文章	調べたことの報告や事象の説明などの文章	文章や図表などを引用して説明したり記録したりする文章や報告の文章など	報告書、説明資料、案内文、通知文
	読む	<ul style="list-style-type: none"> 説明や解説などの文章の内容を理解して自分の考えをもつ。 	事物の仕組みを説明した文章	記録や報告、説明や解説などの文章	説明や記録、報告や解説、報道などの文章、実用的な文章	実用的な文章、図表等を伴う文章
他者の説得/ 他者の主張の吟味	話す・聞く	<ul style="list-style-type: none"> 根拠に基づいて主張などを述べる。 主張などを聞いて自分の考えをもつ。 	—	意見や提案など	提案や主張など	主張、論拠を示した同意、反論
	書く	<ul style="list-style-type: none"> 根拠に基づいて主張する文章などを書く。 	—	意見を述べる文章	意見を述べる文章や批評する文章など	自分の意見や考えを論述する文章
	読む	<ul style="list-style-type: none"> 論説などの文章の内容を理解して自分の考えをもつ。 	—	—	論説などの文章	論理的な文章、図表等を伴う文章
感動の共有/ 感動への共感	話す・聞く	<ul style="list-style-type: none"> 経験や思いなどを伝える。 経験や思いなどを聞いて感想をもつ。 	（紹介や報告など）	（報告など）	—	—
	書く	<ul style="list-style-type: none"> 経験や想像したことを基に思いや感動を伝える文章などを書く。 	簡単な物語など	詩や物語、短歌や俳句感想や自分にとっての意味などをまとめて書く	詩、随筆、短歌、俳句、物語など	短歌、俳句、詩、随筆
	読む	<ul style="list-style-type: none"> 文学的な文章の内容を理解して自分の考えをもつ。 	物語など	詩や物語、伝記など	小説や随筆、詩歌など	随筆、物語、短歌、俳句、詩
合意形成	話し合う	<ul style="list-style-type: none"> 進行を工夫し互いの発言を関連付けて考えをまとめる。 	尋ねたり応答したりする活動	それぞれの立場から考えを伝え合う話し合い	互いの考えを生かしながら議論や討論をする活動など	目的に応じて結論を得たり、多様な考えを引き出したりする議論や討論をする活動
古典に学ぶ	読む	<ul style="list-style-type: none"> 古典の文章の内容を理解して自分の考えをもつ。 	古典に親しむことを目的として〔知識及び技能〕(3)の事項で扱う。			近世以前の文章 漢文、日本漢文、和歌
話題や題材の範囲			身近な出来事等	日常生活	日常生活 社会生活	実社会 言語文化の特質に関わりの深いこと

【※1】学校段階等に応じてどのような質的な高まりのある資質・能力を育成するかという詳細については、別途検討

【※2】該当する話や文章の種類が現行学習指導要領で示されていない場合は「—」とし、概ね該当すると考えられる話や文章の種類が示されている場合は（ ）で示している

各領域の学習過程の再整理

理解 表現

領域	読むこと	話すこと・聞くこと			書くこと
		聞くこと	話し合うこと	話すこと	
現行	構造と内容の把握	話題の設定	話題の設定	話題の設定	題材の設定
	精査・解釈	情報の収集	情報の収集	情報の収集	情報の収集
	考えの形成	構造と内容の把握	内容の検討	内容の検討	内容の検討
	共有	精査・解釈	話し合いの進め方の検討	構成の検討	構成の検討
		考えの形成	考えの形成	考えの形成	考えの形成
		共有	共有	共有	共有
					記述
					推敲
					共有

現行



学習過程

領域	読むこと	話すこと・聞くこと			書くこと
		聞くこと	話し合うこと	話すこと	
再整理 (たたき台)	構造と内容の理解・ 解釈 ・構造を理解する ・内容を解釈する	構造と内容の理解・ 解釈 ・構造を理解する ・内容を解釈する	考えの形成 ・情報を収集する ・情報を整理する	考えの形成 ・内容を検討する ・構成を検討する	考えの形成 ・内容を検討する ・構成を検討する
	考えの形成 ・内容を評価し熟考する ・形式を評価し熟考する	考えの形成 ・内容を評価し熟考する ・形式を評価し熟考する		表現・推敲 ・発話する ・発話を調整する	表現・推敲 ・記述する ・文章を推敲する

再整理
(たたき台)

学習過程

※「言語能力を構成する資質・能力が働く過程のイメージ」（6ページ参照）を参考に、各領域の学習過程を再整理している。



(社会・地理歴史・公民WG) 資質・能力の構造化等に関連する検討のポイント

1. 目標・内容の構造化等のポイントについて

- 民主的で持続可能な社会の創り手を育成する観点から、社会的事象に関する**概念の理解**、**確かな情報に基づき適切かつ効果的に調べまとめる技能**や、資料や概念に基づき**自らの考えを批判的に捉え直す力**を養うことなどを重視する方向で目標を改善。

(目標の見直しのポイント)

(知識及び技能) …社会的事象に関する概念の理解を重視。**真偽が定かでない情報が行き交う中、情報の信ぴょう性の確認を重視。**

・小中： **「確かな」**情報に基づく**「適切かつ」**効果的に調べまとめる技能の習得。

・高校： **批判的に**情報を扱う視点を重視し**「妥当性を吟味しながら」**調べまとめる技能の習得。

(思考力、判断力、表現力等) …より深い学びを具現化するため、**自らの考えを批判的に捉え直す力**の育成を追記。

(学びに向かう力、人間性等) …**自らの学びを振り返りながら、主体的かつ協働的に問題解決しようとする態度**を明記。

- **従来「見方・考え方」で学びの深まりの鍵として示していた「位置や空間的な広がり、時期や時間の経過」といった着目すべき視点や、「比較・分類したり総合したり」といった対象を分析する方法については、一層授業改善に活かす観点から、「社会的な視点や方法等」として「総合的な発揮」において示すこととした**
- 社会科・地歴公民科については、知識及び技能の系統性が明確であり、個々の知識及び技能と一体的に育成する思考力・判断力・表現力等を具体的に示すことが授業改善に繋がることから、**「並列パターン」での構造化を検討**

2. その他の重要論点について

- **今後「高次の資質・能力」と個別の内容の精査を往還する中で必要な内容の精選を進めつつ、グローバルな協調や競争に関する課題や自然災害、デジタル技術の発展、人口減少社会がもたらす社会構造の変化など複雑化・多様化が進展する社会の状況を踏まえた内容の在り方等についても検討**

社会科等の新たな「見方・考え方」の見直しイメージ（案） <教科科目・分野一覧>

教科科目・分野	現行の記載	見直し案
小学校社会	【社会的事象の見方・考え方】 社会的事象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること	社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
中学校社会 （地理的分野）	【社会的事象の地理的な見方・考え方】 社会的事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること	社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
高等学校地理歴史 （地理総合、 地理探究）	【社会的事象の地理的な見方・考え方】 社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること	
中学校社会 （歴史的分野）	【社会的事象の歴史的な見方・考え方】 社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりすること	
高等学校地理歴史 （歴史総合、 日本史探究、 世界史探究）	【社会的事象の歴史的な見方・考え方】 社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりすること	社会的事象やその言説を、時系列、推移、類似や差異、因果関係や現在とのつながりなどに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
中学校社会 （公民的分野）	【現代社会の見方・考え方】 社会的事象を政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること	社会的事象やその言説を、政治、法、経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
高等学校公民 （公共）	【人間と社会の在り方についての見方・考え方】 社会的事象等を、倫理、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築や人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること	社会的事象やその言説を、倫理、政治、法、経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え、人間としての在り方生き方についての自覚を深めることや、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること （見方・考え方） ●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。
高等学校公民 （倫理）	【人間としての在り方生き方についての見方・考え方】 社会的事象等を、倫理、哲学、宗教などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること	
高等学校公民 （政治・経済）	【社会の在り方についての見方・考え方】 社会的事象等を、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること	

💡 (算数・数学WG) 資質・能力の構造化等に関する検討のポイント

1. 目標・内容の構造化等のポイントについて

- 算数・数学の学習の本質を明確にしつつ、小・中・高を通じて一貫性・系統性を確保した指導を充実する観点から、小・中・高で教科の目標を統一しつつ、**必履修部分に係る学習内容を共通する6つの「分野」で整理**
- 世界トップレベルの数学的リテラシーを有しつつ、高校卒業後の進路に理工系が選択されにくい現状や、その一因として、数学と社会・職業との関係の理解が進んでいない状況。
- また、現代社会の重要なインフラとなりつつある**AI技術やデータサイエンス等**の仕組みを理解し、適切に利活用できるようにする観点から、**それらの基盤となる学習（行列、微分・積分、確率、統計）を充実する必要**
- これらの観点から、以下の改善を検討
 - 中学校以降で、数学と社会・職業との関係や数学全体の見取り図を示すような**ガイダンス的な学習を新設**
 - 高等学校「**数学I**」において、AI等の基盤となる内容を含め、**高校卒業時に身に付けるべき数学的素養の基礎を学ぶ内容を新設**
- 算数・数学科については、知識及び技能の系統性が明確であり、個々の知識及び技能と一体的に育成する思考力・判断力・表現力等を示すことが授業改善に繋がることから、**「並列パターン」での構造化を検討**

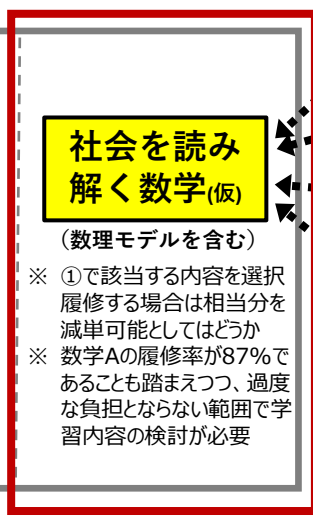
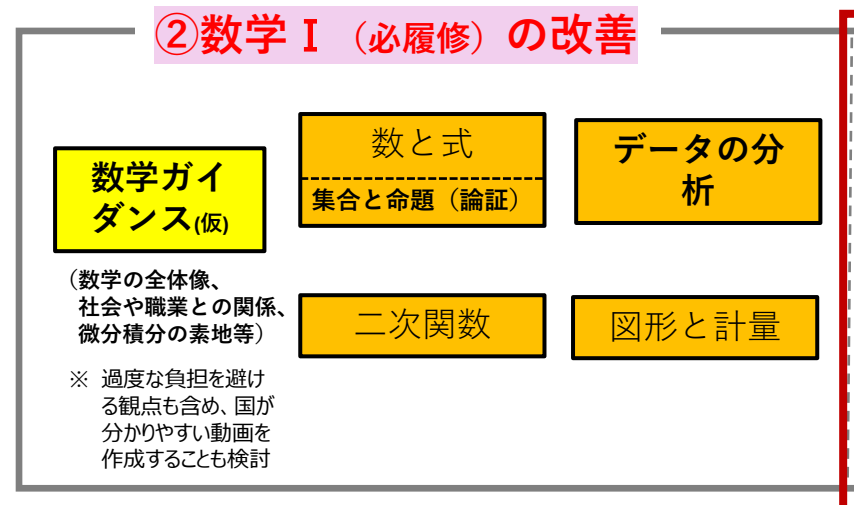
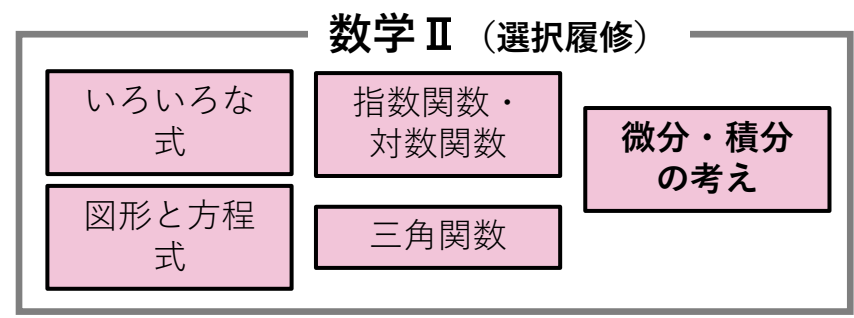
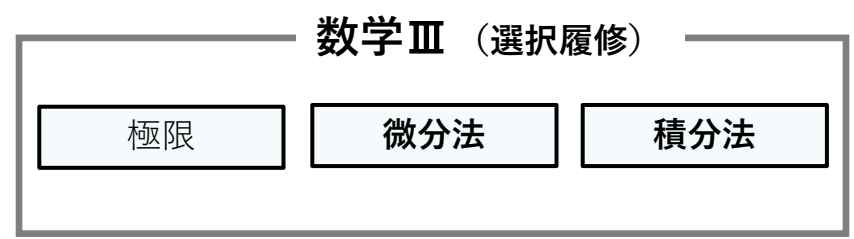
※ 学習内容の実質的増加につながらないよう、教科全体の学習内容について必要な精選を図ることを前提

2. その他の重要論点について

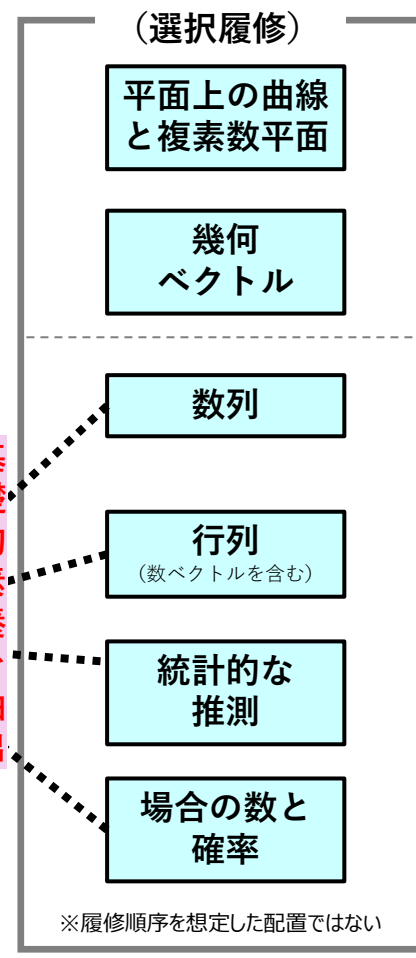
- 高等学校について、現行の「**数学A**」「**数学B**」「**数学C**」を、生徒が**必要な学習内容を選択履修しやすく、各学校が柔軟にカリキュラムを編成・実施**できるよう、ABCの区分けをなくして内容を選択できる一つの**新科目として整理**
- メディアリテラシーの観点も意識し、「**事象や言説を数理の視点から捉え、論理的、統合的・発展的、批判的に考察すること**」を新たな見方・考え方として検討

高等学校数学科の科目構成の見直しイメージ（たたき台）

①ABCの区別をなくし、
必要な学習内容の選択を容易化



基礎的素養を抽出



▶学習内容の実質的増加につながらないよう、全体の学習内容について必要な精選を図る。

【議題2】 4. 新しい「見方・考え方」の整理

- 教科としての一貫性に鑑み、引き続き、小・中・高等学校で、文言の統一を図ってはどうか。
- その際、教科で扱う対象について、現行では単に「事象」とされているが、より社会との接続を意識した規定ぶりとしてはどうか。
- また、「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核」に焦点化するという全体的な方向性を踏まえれば、**社会におけるクリティカル・シンキング（批判的思考）**の重要性の高まりを踏まえるべきではないか。加えて、教科固有の視点について「数量や図形及びそれらの関係」のみが例示されていることをどう考えるか。

（現行）

【小・中・高等学校】

事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること



（改訂案）

●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

【小・中・高等学校】

社会や自然の事象や言説を数理の視点から捉え、**論理的、統合的・発展的に考え、批判的に考察すること**

議題1

議題2

💡 (理科WG) 資質・能力の構造化等に関連する検討のポイント

1. 目標・内容の構造化等のポイントについて

- 理科の学習の本質を明確にしつつ、小・中・高を通じて一貫性・系統性を確保した指導を充実する観点から、小・中・高で教科の目標を統一しつつ、学習内容を共通する4つの「分野」(物理・化学・生物・地学)で整理
- 「科学的な探究」の課程を教育課程全体で位置づけ、解説等も活用して具体的に示していくことで、理科の学習全体を通じて科学的な思考・方法を身につけるという趣旨を明確化
- エネルギー問題や環境問題など、特定の分野・領域に限定できない科学的な社会課題が増加していることを踏まえ、分野横断的な課題について学ぶ学習内容を、小学校にも新たに設定(理科と日常生活(仮称))

※ 学習内容の実質的増加につながらないように、教科全体の学習内容について必要な精選を図る

- 理科については、知識及び技能の系統性が明確であり、個々の知識及び技能と一体的に育成する思考力・判断力・表現力等を示すことが授業改善に繋がることから、「並列パターン」での構造化を検討。

2. その他の重要論点について

- 学問分野にとらわれない科学的思考・方法の基本について学ぶ内容や、理科の学習と研究・社会とのつながりについて学ぶ内容が各学校段階で十分存在しないことへの対応について、今後検討

(具体例)

- ・科学とは何か(仮説を不断に検証する営みであること等)
- ・検証の方法(実験では条件制御が必要であること等)
- ・研究倫理(捏造、改ざん、盗用は、なぜいけないのか等)
- ・理科の学習内容と、研究・社会とのつながり

- メディアリテラシーの観点も意識し、「自然や社会の事象・言説を、自然科学的な視点から捉え、観察・実験の結果や科学的知見などに基づいて、客観的、論理的、批判的に考察すること」を新たな見方・考え方として検討

- **教科としての一貫性**に鑑み、引き続き、**小・中・高等学校で、文言の統一**を図ってはどうか。
- その際、**教科で扱う対象**について、現行では「(身近な)自然の事物・現象」に限定されているが、**より社会との接続を意識した規定ぶり**としてはどうか。
- また、「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核」に焦点化するという全体的な方向性を踏まえれば、**社会におけるクリティカル・シンキング(批判的思考)**の重要性の高まりを踏まえるべきではないか。
- 加えて、教科固有の視点について「質的・量的な関係や時間的・空間的な関係」のみが例示されていることをどう考えるか。

(現行)

【小学校】

身近な自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの問題解決の方法を用いて考えること

【中学校・高等学校】

自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること

(改訂案)

●● (当該教科で扱う事象や対象) を ●● (当該教科固有の物事を捉える視点) の視点から捉え (に着目して捉え)、 ●● (当該教科固有の考え方や判断の仕方) すること。

【小・中・高等学校】

具体的内容は各校種・科目の解説で説明することとしてはどうか

自然や社会の事象・言説を、自然科学的な視点から捉え、**観察・実験の結果や科学的知見**などに基づいて、**客観的、論理的、批判的に考察**すること

議題1

議題2

參考資料



「民主的な社会の創り手」の素地としての情報活用能力

- 生成AI等による**偽・誤情報の拡散**は、フィルターバブルやエコーチェンバー等と相まって、**価値観を偏らせ社会の分断を誘引・拡大し、民主主義を危険にさらすおそれがあることが世界的に指摘されている**
- **情報活用能力の抜本的な向上**を図り、社会にあふれた情報の中から**真に必要な情報を吟味し適切に取り扱う力が養われること**で、自ら意見を形成し、多様な他者との対話や合意を図るといった**確かな民主主義を担う力が涵養され、社会の分断をも防ぎ得るのではないか**

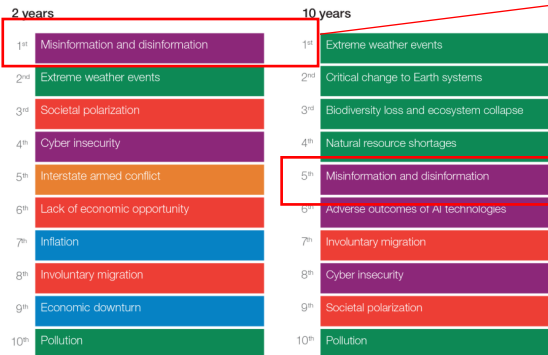
1. 「偽・誤情報」は世界的に最も深刻なリスク

Global Risks Report 2024



Top 10 risks

Please estimate the likely impact (severity) of the following risks over a 2-year and 10-year period.



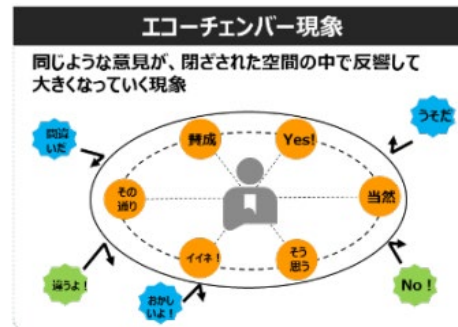
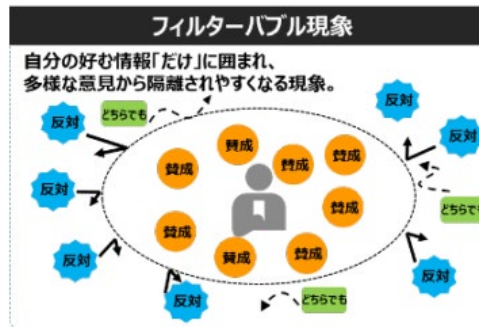
Risk categories | Economic | Environmental | Geopolitical | Societal | Technological

Source: World Economic Forum Global Risks Perception Survey 2023-2024.

- 偽・誤情報の拡散は世界的に問題
- 今後2年間で予想される最も深刻なリスクとして「偽情報」を挙げている (2024年1月、世界経済フォーラム)

【出所】総務省「令和6年版 情報通信白書」を基に作成

2. 「偽・誤情報」の拡散の構造的な要因の例



【出典】令和7年5月12日 教育課程企画特別部会 資料 1-1

確認バイアス (Confirmation bias)
人は「自らの見たいもの、信じたいものを信じる」という心理的特性を有している※

アテンションエコノミー
アテンションを集めてクリックされるために、過激なタイトルや内容、憶測だけで作成された事実に基づかない記事等が生み出されることがあり、偽・誤情報の拡散やインターネット上での炎上を助長させる構造を有している※

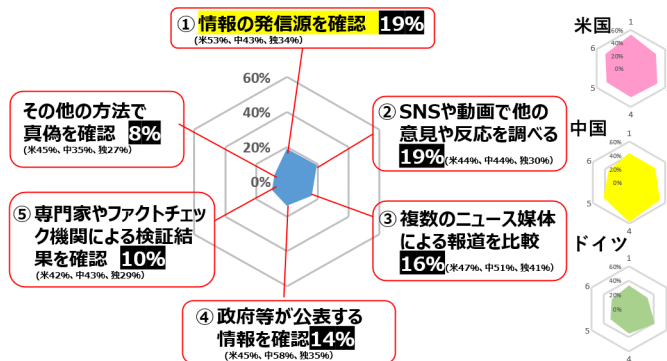
3. 負の側面の理解、適切に対応する力が不十分

- 偽・誤情報の認識率が他国より低い
- ネット情報の信頼性、確認の割合いずれの方法も他国より大幅に低い

SNSやブログなどで偽情報・誤情報だと思う情報を見かける頻度

	ほとんどない (%)	そもそも何が偽情報・誤情報なのかが分からない (%)
日本	15.3	14.5
アメリカ	4.5	1.3
イギリス	7.3	1.9
フランス	8.7	3.3
韓国	7.9	1.1

出所: 総務省「令和4年度 国内外における偽・誤情報に関する意識調査」より作成



【出所】総務省「国内外における最新の情報通信技術の研究開発及びデジタル活用の動向に関する調査研究の請負成果報告書」(2024(令和6年)3月 総務省情報流通行政局情報通信政策課情報 通信経済室)を基に作成
※アンケート対象: 各対象国の居住者及び、20代から60代の男女を対象 日本N=1030 米国、中国、ドイツ N=520
※オンライン情報の信頼性の確認方法: 「あなたはオンライン上で最新のニュースを知りたい時に、どのように情報の信頼性を確かめますか?」の問いに「ほぼ全てのニュースについて行う」あるいは「よく行う」と回答した割合

- 情報活用能力の学習の基盤としての位置付け、情報活用能力の範囲、情報技術の変動性に留意しつつ、情報活用能力の構成要素別に（情報技術の①活用、②適切な取扱い、③特性の理解）、各学校段階で育成すべき主な資質・能力の例を以下のとおり「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」に整理してはどうか

小学校

中学校

高等学校

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

・多様な情報収集の方法を身に付ける
 ・情報やデータを整理し傾向を把握する方法を身に付ける
 ・目的に応じた表現技能を身に付ける
 ・情報技術の適切な操作を身に付ける

・適切な方法で情報やデータを収集・整理し傾向を明らかにしたうえで、目的に応じて効果的に表現し、身近な課題を解決できる

・効率的な情報収集の方法を身に付ける
 ・情報やデータの統計的な分析の方法を身に付ける
 ・複数の情報技術を組み合わせた表現技能を身に付ける

・複数の手段により効果的に収集した情報やデータを統計的に分析し根拠を判断したうえで、適切な情報の加工をもって課題を解決できる

・組み合わせによる効果的な情報収集の方法を身に付ける
 ・情報やデータを構造化し科学的に分析し論理的に考察する方法を身に付ける
 ・情報技術を統合した効果的な表現技能を身に付ける

・情報技術の特性や信頼の多面性を踏まえ、情報やデータを統計的・多角的に分析し根拠を判断したうえで、解決策を論理的に構成・適切に表現し、効果的な議論を経て課題を解決できる

・自他の権利やルール、マナー、セキュリティを理解する
 ・生活や健康への影響、安全管理を理解する
 ・メディアにより情報や印象が異なること、誤情報・悪意のある情報もあることを理解する

・権利と責任、ルールとマナー、セキュリティ、情報技術の活用による影響等を踏まえて適切に行動することができる

・権利に係る基本的な法制度や責任を理解する
 ・倫理的配慮や情報セキュリティの基本を理解する
 ・心身を含むリスク評価と適切な対処を理解する

・法や倫理等を多面的に考え、情報セキュリティを踏まえつつ、情報技術のリスクを評価して適切に行動することができる

・法・制度の意義や責任を理解する
 ・倫理的な配慮を踏まえた適切な活用に関し理解する
 ・情報セキュリティを踏まえたリスクと利便性の評価・管理を理解する

・法・制度の意義や倫理的課題を考察し責任をもつことや、情報セキュリティを踏まえつつ、情報技術のリスク、利便性、信頼性等を評価して適切に行動することができる

・生成AIを含む情報技術の基本的な仕組みや特性を理解する
 ・コンピューターに指示するために必要な手順を理解する

・情報技術の特性を踏まえ、プログラミング的思考に基づき、身近な課題の解決策を表現することができる

・情報技術の仕組みを理解する
 ・AIの仕組みと社会での活用を理解する
 ・アルゴリズムの理解と構造的な表現方法を身に付ける
 ・ユーザ視点の情報デザインを理解する
 ・データの効率的な管理・活用の仕方を身に付ける
 ・メディア特性が受信・発信に与える影響を理解する
 ・技術による社会のシステム化を理解する

・情報技術の仕組みや特性を踏まえ、AIやアルゴリズム、情報デザイン、データ分析、メディアの活用と社会的視点を統合し、生活や社会における課題を多面的に分析して解決策を構想・表現することができる

・情報技術の原理を科学的に理解する
 ・AIの特性と課題を踏まえた活用の方法を身に付ける
 ・アルゴリズムやシステム構築の設計と評価の方法を身に付ける
 ・ユーザ中心の情報設計・評価の方法を身に付ける
 ・データの科学的分析・解釈や、モデル化、シミュレーションを理解する
 ・メディア・ツールの統合・活用の方法を身に付ける
 ・技術発展の影響を多面的に理解する

・先端技術を含む情報技術の原理や特性を踏まえ、AIやアルゴリズム、情報デザイン、データ分析、モデリング、シミュレーション、メディア・ツールの活用と社会的視点を統合し、生活や社会における専門的な課題を分析し、正確に捉えて、解決策を創造的に構想・表現することができる

① 課題の設定
 情報の収集
 整理・分析
 まとめ・表現
 基本的な操作

② 法や制度
 倫理
 安全

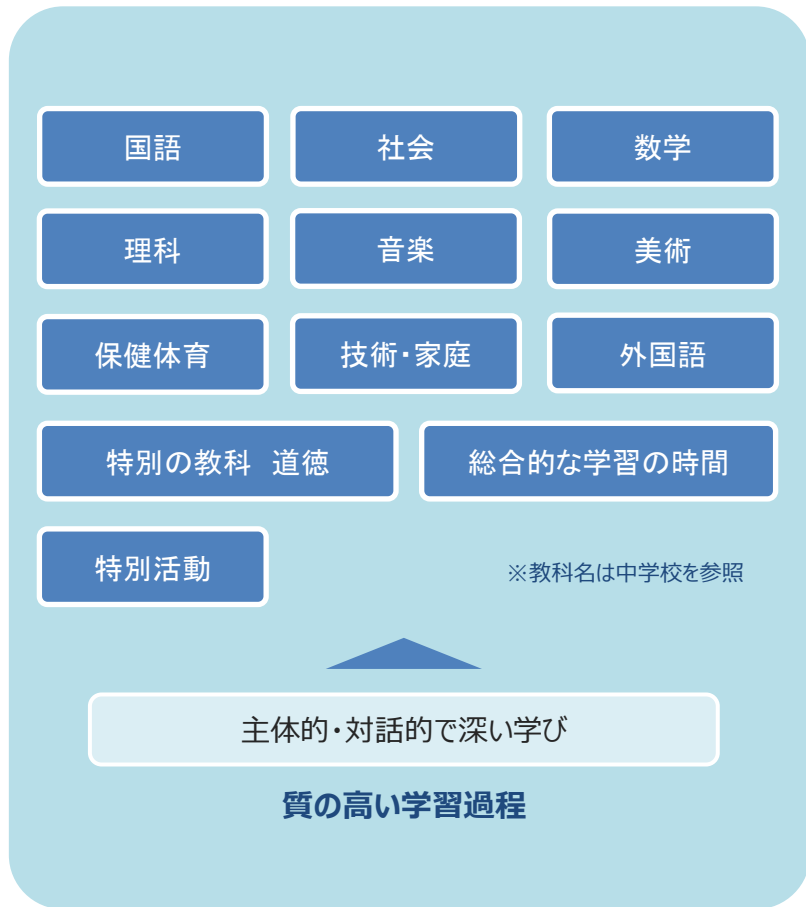
③ 情報及びコンピュータの原理
 AI
 アルゴリズム・プログラミング
 デザイン
 データの扱い
 コミュニケーションやメディア
 社会的役割

「学習の基盤となる資質・能力」の相互の関係等について

令和7年12月15日総則・評価特別部会 資料2より

各教科等において育む資質・能力

元となる学問体系等を踏まえて系統的に内容が組織・配列されていることで、学習内容の体系的な習得を図るとともに、学習内容を相互に結びつけて理解しやすくなるなど、資質・能力の深まりを効果的に実現する。



各教科等の
内容を通じて
育成を図る



日々の学習や
生涯にわたる
学びを基盤とし
て支える

学習の基盤となる資質・能力

個々の教科等に収まらず、日々の学習や生涯にわたる学びを基盤として支える資質・能力は、各教科等の内容を通じて育成を図ることとなる一方、育成する資質・能力の全体像を教科等を超えて整理することで、各学校でのカリキュラム・マネジメントを通じた教育課程全体での体系的な育成を担保する。

言語能力

言語による情報を理解してそれを基に思考し、文章や発話により表現するための力

→言語を介して「他者」を理解し、知識を得つつ「自分」の考えを形成・表現する根幹であり、人間ならではの思考やコミュニケーション等を生み出す基礎となるもの。思考・判断・表現の過程で、自らの諸感覚を通じた経験（身体性）に根差した言語による「外化」を行うことが、生成AI時代にこそ不可欠な「深い学び」の鍵を握る。

思考やコミュニケーション等の強化・拡張

相補的に働く

思考やコミュニケーション等の基礎

情報活用能力

情報技術を適切かつ効果的に活用し、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていく力

→情報技術を活用して、言語と言語以外の情報を効果的に組み合わせたり、情報を再構築したり、自らの身体では難しい創作などを行ったり、情報を地理的制約を超えて広く発信するなど、人間の思考やコミュニケーション、身体活動等を強化・拡張し、探究的な学びや課題解決に繋げていくもの。より質の高い、効率的な「外化」を可能とする。

学習指導要領、解説における「情報モラル教育」に関する主な記述

小学校学習指導要領(平成29年3月告示)抜粋

第1章 総則 第2

2 (1) 各学校においては、児童の発達の段階を考慮し、言語能力、**情報活用能力(情報モラルを含む。)**、問題発見・解決能力等の**学習の基盤となる資質・能力**を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。

小学校学習指導要領解説 総則編

第1章総則第2の2(1)においては、「情報活用能力(情報モラルを含む。)」として、情報活用能力に情報モラルが含まれることを特に示している。携帯電話・スマートフォンやSNSが子供たちにも急速に普及するなかで、インターネット上での誹謗中傷やいじめ、インターネット上の犯罪や違法・有害情報の問題の深刻化、インターネット利用の長時間化等を踏まえ、情報モラルについて指導することが一層重要となっている。

情報モラルとは、「情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度」であり、具体的には、他者への影響を考え、人権、知的財産権など自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつことや、犯罪被害を含む危険の回避など情報を正しく安全に利用できること、コンピュータなどの情報機器の使用による健康との関わりを理解することなどである。このため、情報発信による他人や社会への影響について考えさせる学習活動、ネットワーク上のルールやマナーを守ることを意味について考えさせる学習活動、情報には自他の権利があることを考えさせる学習活動、情報には誤ったものや危険なものがあることを考えさせる学習活動、健康を害するような行動について考えさせる学習活動などを通じて、児童に情報モラルを確実に身に付けさせるようにすることが必要である。その際、情報の収集、判断、処理、発信など情報を活用する各場面での情報モラルについて学習させることが重要である。また、情報技術やサービスの変化、児童のインターネットの使い方の変化に伴い、学校や教師はその実態や影響に係る最新の情報の入手に努め、それに基づいた適切な指導に配慮することが必要である。併せて児童の発達の段階に応じて、例えば、インターネット上に発信された情報は基本的には広く公開される可能性がある、どこかに記録が残り完全に消し去ることはできないといった、情報や情報技術の特性についての理解に基づく情報モラルを身に付けさせ、将来の新たな機器やサービス、あるいは危険の出現にも適切に対応できるようにすることが重要である。

さらに、情報モラルに関する指導は、道徳科や特別活動のみで実施するものではなく、各教科等との連携や、さらに生徒指導との連携も図りながら実施することが重要である。

(中略)

さらに、児童が安心して情報手段を活用できるよう、情報機器にフィルタリング機能の措置を講じたり、個人情報の漏えい等の情報セキュリティ事故が生じることのないよう、学校において取り得る対策を十全に講じたりすることなどが必要である。

※中学校の場合は、小学校の学習指導要領、同解説にある「児童」が「生徒」となる。

情報リテラシーとメディアリテラシー

- 情報リテラシーとは、以下の方法を通じて情報を倫理的に活用することを可能にする思考力、実践的スキル、知識、態度を持つことである：
 - ✓ 情報の必要性を認識し、その必要性を明確に表現すること
 - ✓ 関連する情報を特定し、アクセスすること
 - ✓ 権威性、信頼性、現在の目的に関して内容を批判的に評価すること
 - ✓ 情報を抽出し、整理すること
 - ✓ 内容から抽象化されたアイデアを統合または操作すること
 - ✓ 倫理的かつ責任を持って、理解した内容や新たに創出した知識を、適切な形式と媒体で聴衆に伝えること
 - ✓ 情報を処理するためにICTを活用できること
- メディアリテラシーとは、以下のことを可能にする思考力・実践的スキル、知識、態度を持つことである：
 - ✓ 民主主義社会におけるメディアの役割と機能を理解すること
 - ✓ それらの機能が果たされる条件を理解すること
 - ✓ メディアコンテンツを批判的に評価すること
 - ✓ 自己表現、異文化間対話、民主的参加のためにメディアと関わること
 - ✓ ICTスキルを含むスキルを応用し、ユーザー生成コンテンツを制作すること

UNESCOにおける“メディア・情報リテラシー”理論

- 情報リテラシーとメディアリテラシーの収束する分野間の関係性について、一部では、情報リテラシーはより広範な研究分野とみなされ、メディアリテラシーは情報リテラシーの研究に包含される。他方では、メディアリテラシーがより広範な研究分野とみなされ、情報リテラシーはその構成要素と見なされる。いずれのシナリオにおいても、包含される分野は通常、「より大きな」分野よりも重要度が低く扱われる。したがって、これらの概念には明らかな不整合が存在する。
- また、右図のように、さまざまな用語（〇〇リテラシー）の使用も、混乱の一因となっている。用語を明確化し、より包括的な理論的アプローチを確保する試みとして、ユネスコは「メディア・情報リテラシー」という用語を提唱した。



Source: UNESCO Media and Information Literacy Curriculum for Teachers

「新聞（論説・報道・広告を含む）」に関連する学習指導要領の主な記述の抜粋

○小学校学習指導要領（平成29年3月告示）

総則

第3 教育課程の実施と学習評価

1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

各教科等の指導に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (3) 第2の2の(1)に示す情報活用能力の育成を図るため、各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ること。また、各種の統計資料や新聞、視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること。

国語

〔第5学年及び第6学年〕

2 内容〔思考力，判断力，表現力等〕

C 読むこと

- (2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。

イ 詩や物語，伝記などを読み，内容を説明したり，自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。

ウ 学校図書館などを利用し，**複数の本や新聞などを活用して，調べたり考えたりしたことを報告する活動。**

「新聞（論説・報道・広告を含む）」に関連する学習指導要領の主な記述の抜粋

社会

〔第5学年〕

2 内容

(4) 我が国の産業と情報との関わりについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 放送、新聞などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解すること。

(イ) 大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解すること。

(ウ) 聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりして、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、放送、新聞などの産業の様子を捉え、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。

(イ) 情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。

3 内容の取扱い

(4) 内容の(4)については、次のとおり取り扱うものとする。

ア アの(ア)の「放送、新聞などの産業」については、それらの中から選択して取り上げること。その際、情報を有効に活用することについて、情報の送り手と受け手の立場から多角的に考え、受け手として正しく判断することや送り手として責任をもつことが大切であることに気付くようにすること。

「新聞（論説・報道・広告を含む）」に関連する学習指導要領の主な記述の抜粋

○中学校学習指導要領（平成29年3月告示）

総則

第3 教育課程の実施と学習評価

1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

各教科等の指導に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (3) 第2の2の(1)に示す情報活用能力の育成を図るため、各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ること。また、各種の統計資料や新聞、視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること。

「新聞（論説・報道・広告を含む）」に関連する学習指導要領の主な記述の抜粋

国語

〔第2学年〕

2 内容〔思考力、判断力、表現力等〕

C 読むこと

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 報告や解説などの文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする活動。

イ 詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。

ウ 本や新聞、インターネットなどから集めた情報を活用し、出典を明らかにしながら、考えたことなどを説明したり提案したりする活動。

〔第3学年〕

2 内容〔思考力、判断力、表現力等〕

C 読むこと

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 論説や報道などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする活動。

イ 詩歌や小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。

ウ 実用的な文章を読み、実生活への生かし方を考える活動。

「新聞（論説・報道・広告を含む）」に関連する学習指導要領の主な記述の抜粋

社会

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

1. 社会的な見方・考え方を働かせることをより一層重視する観点に立って、社会的事象の意味や意義、事象の特色や事象間の関連、社会に見られる課題などについて、考察したことや選択・判断したことを論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりするなどの言語活動に関わる学習を一層重視すること。
2. 情報の収集、処理や発表などに当たっては、学校図書館や地域の公共施設などを活用するとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用し、指導に生かすことで、生徒が主体的に調べ分かって学習に取り組めるようにすること。その際、課題の追究や解決の見通しをもって生徒が主体的に情報手段を活用できるようにするとともに、情報モラルの指導にも留意すること。
3. 調査や諸資料から、社会的事象に関する様々な情報を効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける学習活動を重視するとともに、作業的で具体的な体験を伴う学習の充実を図るようにすること。その際、地図や年表を読んだり作成したり、現代社会の諸課題を捉え、多面的・多角的に考察、構想するに当たっては、関連する新聞、読み物、統計その他の資料に平素から親しみ適切に活用したり、観察や調査などの過程と結果を整理し報告書にまとめ、発表したりするなどの活動を取り入れるようにすること。

社会的事象については、生徒の考えが深まるよう様々な見解を提示するよう配慮し、多様な見解のある事柄、未確定な事柄を取り上げる場合には、有益適切な教材に基づいて指導するとともに、特定の事柄を強調し過ぎたり、一面的な見解を十分な配慮なく取り上げたりするなどの偏った取扱いにより、生徒が多面的・多角的に考察したり、事実を客観的に捉え、公正に判断したりすることを妨げることのないよう留意すること。

「新聞（論説・報道・広告を含む）」に関連する学習指導要領の主な記述の抜粋

外国語

第2 各言語の目標及び内容

2 内容〔思考力、判断力、表現力等〕

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

- ① 言語活動に関する事項(2)に示す事項については、(1)に示す事項を活用して、例えば、次のような言語活動を通して指導する。

ウ 読むこと

(ア) 書かれた内容や文章の構成を考えながら黙読したり、その内容を表現するよう音読したりする活動。

(イ) 日常的な話題について、簡単な表現が用いられている広告やパンフレット、予定表、手紙、電子メール、短い文章などから、自分が必要とする情報を読み取る活動。

(ウ) 簡単な語句や文で書かれた日常的な話題に関する短い説明やエッセイ、物語などを読んで概要を把握する活動。

(エ) 簡単な語句や文で書かれた社会的な話題に関する説明などを読んで、イラストや写真、図表なども参考にしながら、要点を把握する活動。また、その内容に対する賛否や自分の考えを述べる活動。

学校図書館(公立)における新聞配備率の推移

		学校数 (A)	新聞配置学校		新聞配備紙	
			学校数 (B)	割合 (B/A)	新聞紙数 (C)	平均 (C/B)
小学校	平成22年	21,188	3,588	16.9%	4,697	1.3
	平成27年	19,604	8,061	41.1%	10,284	1.3
	令和元年	18,849	10,729	56.9%	16,809	1.6
中学校	平成22年	9,837	1,423	14.5%	2,861	2.0
	平成27年	9,427	3,557	37.7%	6,100	1.7
	令和元年	9,120	5,177	56.8%	13,925	2.7
高等学校	平成22年	3,681	3,313	90.0%	9,290	2.8
	平成27年	3,509	3,194	91.0%	8,914	2.8
	令和元年	3,436	3,269	95.1%	11,551	3.5

※第5次5か年計画(H29～R3)で、小学校等1紙、中学校等2紙、高等学校等に4紙配置されるよう地方財政措置(150億円)

(平成22年度は5月1日現在、平成27年度・令和元年度は年度末実績)

(出典)文部科学省「学校図書館の現状に関する調査」